

学 習 日 誌

11月14日（金）	講 師	座間市教育部生涯学習課文化財担当 佐柄 雄斗先生
出席者数	69名	記 録 者
		1年2班 角田貴司
講 座 名	郷土G講座6 座間の歴史文化財を学ぶ2「座間における縄文時代の展開～縄文人の軌跡を追う～」	
プログラム担当者	館・郷土グループ	
時 間・場 所	13:30～ 15:30 第1集会室	

【学習内容】

講師より縄文時代の座間について市内各所に残る遺跡を使って講演を受けた。内容は座間の地形に触れながら、草創期から晩期に亘って分かり易く説明頂いた。

なお講座終了後に第6回ジャンル別会議を第1・3集会室、学習室に分かれて開催した。

縄文時代の講座概略

- ・座間の地形を相模野台地（目久尻川流域）、座間丘陵、段丘崖下の後背湿地（相模川流域）の分類。
- ・地形断面のイメージ（高、低地の認識）
- ・縄文遺跡地図として座間の地図に遺跡を記入して明示
- ・縄文時代の時間的範囲について、「草創記、早期、前期、中期、後期、晩期」に分類。
- ・**草創期**は遊動生活を想定。まとまった遺跡の組成はなく野営地として発達せず。
栗原中丸遺跡、山ノ神遺跡（土器）
- ・**早期**は縄文文化が次第に萌芽。炉穴群は拠点的な野営地の証拠。狩猟を目的とする陥し穴も発見。
山ノ神遺跡（炉穴群）、下谷遺跡（炉穴群）、鷹見塚遺跡（陥し穴）、庚申師下遺跡（住居跡、陥し穴）
- ・**前期**は積極的な土地利用はなかった。
- ・**中期**は人口が増加し拠点的な集落（環状集落）の発達や、翡翠の太珠の出土から広い地域圏との関係も想像できる。
下谷遺跡（翡翠の太珠）、蟹が澤遺跡（表裏型顔面把手）、中原遺跡（竪穴住居）
- ・**後期**は個性的な縄文文化が開花し文化の成熟が見られる。祭祀様式が整い、特に葬制について発達が見られる。
相原遺跡（意味不明な土製品）、上栗原遺跡（小田原方面の石が使われている馬蹄型の配石遺跡）
- ・**晩期**は有益な遺跡の発見はなく縄文文化は終焉し、後続する弥生時代の遺跡も発見されていない。
縄文時代に生活していた人々も土を離れたと推測される。

【感想】

縄文時代の座間について地元の遺跡を使って分かり易く説明頂き、地元に住む我々にとってはより深く地元を知ることが出来た。